

# 令和4年度 生駒市環境モデル都市及び SDGs 未来都市推進協議会

## 【議事要旨】

日時:令和5年1月 31日(火) 15:00~17:00

場所:生駒市役所201会議室及びオンライン

### 1. 配布資料

- ・ 資料1:環境モデル都市及び SDGs 未来都市推進協議会会員名簿
- ・ 資料2:環境モデル都市における令和3年度の実績の評価結果
- ・ 資料3:SDGs 未来都市等進捗評価シート
- ・ 資料4:令和3年度 生駒市環境モデル都市 取組実績
- ・ 資料5:令和4年度 生駒市環境モデル都市 取組進捗状況

### 2. 協議会出席者

区分	所属	氏名
会長	大阪大学大学院 工学研究科 環境・エネルギー工学専攻 教授	下田 吉之
副会長	エコネットいこま 代表	矢田 千鶴子
委員	生駒商工会議所 専務理事	大原 暁
委員	生駒市農業振興協議会 会長	井上 良作
委員	社会福祉法人 生駒市社会福祉協議会 課長	宮西 泰介
委員	いこま育児ネット 代表	清水 綾
委員	関西電力送配電株式会社 奈良支社 総務部奈良コミュニケーショングループ リーダー	谷口 満
委員	大阪ガス株式会社 エナジーソリューション事業部 業務部 地域共創第3チーム マネジャー	清水 拓哉
委員	近鉄不動産株式会社 経営企画室 部長	楠 浩治
委員	奈良交通株式会社 経営戦略室 統括部長	岡田 泰樹
委員	株式会社南都銀行 生駒支店 支店長	吉田 慎太郎
事務局	生駒市地域活力創生部長 生駒市 SDGs 推進課長 生駒市 SDGs 推進課課長補佐 生駒市 SDGs 推進課主幹兼低炭素まちづくり推進係長 生駒市 SDGs 推進課 SDGs連携推進係長 生駒市 SDGs 推進課低炭素まちづくり推進係員	領家 誠 金子 雅文 木口 昌幸 加納 明 吉村 寛志 綿部 里菜

### 3. 議事録

1. 開会	
2. あいさつ	
3. 会員紹介	
4. 案件	
(1) 役員の選任	
事務局	役員の選任について、委員に意見を求める発言。
各委員	会長を下田委員、副会長を矢田委員とすることを決定。
下田会長	コロナがようやく落ち着いてきたと思ったらウクライナ侵攻が始まり、エネルギー問題や物価高騰、食料不足が続いている。2030年のSDGs達成、2050年のカーボンニュートラルに向け、生駒市の在り方を多方面から検討していきたい。この協議会は様々な立場の方が出席する貴重な機会である。分野にとらわれず、多様な視点から生駒市の将来について提案や意見をいただきたい。
(2) 令和3年度の取組の進捗報告について	
事務局	資料2, 3, 4について説明。
下田会長	温室効果ガス排出量について、民生・家庭部門の排出量が増えていることが読み取れる。どのような要因があるかと考えるか。
事務局	民生・家庭部門の温室効果ガス排出量はこれまでほぼ横ばいであったが、令和2年度から若干増加の傾向にある。コロナの影響で働き方に変化があり、在宅時間が増えたことが要因と考える。
下田会長	生駒市はオフィスが少なく住宅が多い都市であることから、コロナ禍で在宅時間が増えて民生・家庭部門の温室効果ガス排出量が増加したのであろう。
(3) 令和4年度の取組の進捗状況と今後の取組予定について	
事務局	資料5うち、令和4年度の新規取組として、昨年12月から開始している省エネ家電買い換え補助金交付について説明。 国が募集している第3回脱炭素先行地域のへ応募に向けて提案書を作成中であることを説明。地域課題を解決するため、生駒市民パワーと連携し複合型コミュニティづくりを進めること・自治会の協力のもと脱炭素化を図ること等を検討していると説明。 資料4,5のうち、いこま SDGsアクションネットワークについて・SDGs推進事業補助金について・くらしのブンカサイ in いこま2022(SDGs環境フェスティバル2022)について説明。
下田会長	脱炭素化の実現に向けては、再エネの時代が到来していることの象徴となる場所の設定が有効であると考えため、是非検討していただきたい。
(4) その他について	
下田会長	各委員の取組をご紹介いただいたうえで、協議会の総括など、自由にご意見をいただき

	たい。SDGs達成は、17のゴールを分割して取組むのではなく、それぞれの取組が繋がって17のゴールが達成できると考える。どんな小さな取組でも SDGs 達成に繋がるものであるため、お気づきの点等があれば発言いただきたい。
大原委員	コロナ含め社会全体の変動の中で、商工業者も非常に大変な時である。SDGs達成に向けてできることから取組んでいきたいと考えている。
井上委員	ウクライナ侵攻の影響で肥料の確保が難しくなっている。草や剪定した枝などは極力燃やさずに堆肥にする取組を行っている。一方で、土が肥えるとミミズやモグラが増えてしまう弊害があり悩んでいる。 作った農作物のうち規格外で出荷できない農作物は、子ども食堂に無料で提供して活用していただいている。また、規格外の人参や大根を使って、子どもたちが作品を作ることもある。ほかの農家の方々にも声を掛けてこの取組を広げていきたいと考えている。
下田会長	生駒市は、市として積極的に農業に関わる施策を行っているのか。
事務局	今年度から、就農までとはいかないが本格的に農業を学びたいと考える現役世代を対象に、いこまファーマーズスクールを立ち上げた。アフターコロナ含め都市部でのライフスタイルが合わないと感じている方に、都会を離れても自分らしい生活を営むことができるということをコンセプトとしたもの。年齢制限を設けて現役世代のみを対象としていた中で、15組の募集枠に75組の応募があった。市内には耕作放棄地も増えており、スクールに参加いただいた方々を、農業委員会が間に入ってうまくマッチングできないか検討中である。 地産地消の観点から、生駒市はコロナが始まって青空市を中止しなかった。また、より地産地消を進めていくために、民間人材枠の社会人の募集を行った。今まで行ってきた農家への支援にとどまらず、さらなる地産地消や流通の促進に取組む。規格外の作物を加工品にする取組や、レインボーラムネ以外のふるさと納税の充実など、これまでの生駒市では行ってこなかった新しいことをやってみたいと考えている。
宮西委員	社会福祉協議会は、高齢者支援や困窮者支援という形で SDGs達成に関わっている。今年度新たに、郵便局やスーパーと連携してフードドライブ実施をし、生活相談に来られた困窮者の方にお渡しして活用いただいている。またほかに新たな取組として、郵便局にボックスを置かせていただいて使わなくなった学用品を集め、困窮者へお渡しする学用品のリユースを始めた。多くの学用品を提供いただいております、たくさんの方がリユースという言葉に積極的に反応してくださっている。市民の方々が SDGsに関心・理解を持っていることの表れであると感じる。
下田会長	コロナ禍で大変だったことはどのようなことか。
宮西委員	特例貸付の相談がたくさんあった。また民生委員の支援を行う中で、コロナの影響で民生委員が地域の家庭に訪問することが難しいという状況があった。電話やオンライン面談で対応してきたが、高齢者には難しい場合もある。
清水(綾)委員	未就園児を育てる母親へのサポートを行っている。育児サークルの運営や支援、ベルテ

	<p>ラスでリユースのプラレールを使った子育て広場の開催等を行っている。子育て相談に来る方は受け身なことが多いが、そこから自主的に育児サークルに参加したり、地域との繋がりを作ってまちへの愛情を持つようになったり、良いサイクルができつつあると感じている。</p>
下田会長	<p>コロナ禍での子育て支援は難しいか。</p>
清水(綾)委員	<p>例えば、母親の代わりに少しの時間子どもを抱っこする、落としたおもちゃを拾って渡すなどのちょっとした行為も、していいのかどうか悩んでしまう。支援センターではおもちゃの消毒や床の清掃の徹底などが大変である。</p>
谷口委員	<p>小学校6年生を対象に出前授業を行っている。電気はどのように作られて、どのように家庭に届けられているのか、また届いた電気はどのように使われているのかを学んでいただく。先月は生駒台小学校で出前授業を行い、今月は俵口小学校で行う予定である。普段当たり前に使っている電気について、子どもにも興味を持ってもらいやすいように実験を交えて授業を行っている。発電方法は水力発電、火力発電、原子力発電などがあり、それぞれにメリットとデメリットがあることも伝えている。原子力発電であれば厳しい管理を行わなければならないこと、水力発電であれば水が無ければ発電できないことなど、詳しく説明している。</p>
清水(拓哉)委員	<p>生駒市はこれまで CO2 削減に対して積極的に取り組んでこられたと感じている。ただ、国が 2050 年の脱炭素化という高いハードルを掲げている中で、現状の技術では一足飛びに脱炭素の実現は難しい。今できる最大限の取組を地道に続けることが非常に大切である。</p> <p>今後大阪ガスは、都市ガスの原料をメタネーション技術により合成メタン(「e-methane」:昨年 11 月末に日本ガス協会が発表した合成メタンの名称)に置き換えるという取組を行っていく。合成メタン(e-methane)とは、二酸化炭素と水素を合成して生成されるメタンのことであり、成分は天然ガスとほぼ同じであるため、既存のパイプラインを使ってお客さまに届けることが可能である。メタンの燃焼によって発生した CO2 は、回収して再び水素と合成し e-methane を作るため、CO2 をリサイクルすることで新たな CO2 を発生させない。この技術を活用してカーボンニュートラルを実現したいと考えている。e-methane は 2030 年からパイプラインへの注入を開始し、2050 年には 100%都市ガスのカーボンニュートラル化を目指している。</p> <p>現状の低炭素への取り組みについてであるが、資料5に記載のある家庭用燃料電池は 10 年以上前から導入が始まり、普及が進んできた。生駒市でも家庭用燃料電池の設置に補助金を交付していたが、一定の普及が促進されたこと等から令和3年度で終了されている。しかし、昨今のエネルギー価格の高騰や原料価格の高騰から、家庭用燃料電池の価格も高騰している現状があるため、生駒市の脱炭素先行地域の取組の中で家庭用燃料電池普及策を再度検討していただきたい。</p>
楠(浩治)委員	<p>昨年 12 月から、近鉄東生駒駅ですまいとくらしのプラットフォームという無人店舗を開催している。東生駒には有人店舗も二つあり、一つは東生駒営業所で中古住宅を取り扱っている。もう一つはニューイング東生駒でリフォームを扱っている。これらに加えて、</p>

	<p>すまいとくらしのプラットフォームというスマートスポットを新たに開始した。昨年度の実績としては、来館者が736名、物件検索された方が101名、具体的にオンライン相談をしていただいた方が5名。DXを絡めた新たなモデルの構築を図っている。CO2削減については、既存の賃貸住宅等の照明のLED化、高性能な空調機への更新などを行っている。</p>
下田会長	<p>コロナでテレワークが広がったことで、駅近よりも郊外を選ぶという方が増えたりはしているか。</p>
楠(浩治)委員	<p>コロナの影響で郊外の住宅地へ流れていく動きは一時期は確かにあったが、継続的なものではないというのが現状。</p>
岡田委員	<p>今年度の取組として、3月までに小型の電気バスを2台導入したいと考えている。電気バスは、走行時のCO2排出量がないこと、ディーゼルエンジンと比較して静かであること、災害時に非常用電源として使用できること等がメリットである。一方で、一度の充電で走行できる距離が短いという点もあり、現行の技術では奈良交通のすべてのバスを電気バスにするというのはなかなか難しい。エアコンの使用頻度等によって、夏冬・春秋とでは電気使用量に開きがある。今後実証実験しながら取組を進めていきたいと考えている。</p>
吉田委員	<p>SDGsセミナーや普及活動等のプログラム、また有料ではあるがSDGsの取得サポートのプログラムを行っており、生駒市のお客様にも案内をしている。SDGsの取組に対するお客様の反応としては、すでに取組んでいるという方、検討したが敬遠される方、はじめから敬遠される方の3パターンに分けられる。個人で小事業をされている方ほど3つ目のパターンが多い。しかし、現状の社会では、SDGsに目を向けているかどうか事業者として大切な基準になってきている。その視点で考えたときに、環境だけでなく経済や社会全体を含めた様々なプログラムに興味を持っていただき、セミナーや有料プログラムに参加していただける方が増えている。今後もこの取組を続けていくことで、働きやすい職場・住みやすい街づくりへの意識が高まっていくと考えている。</p>
矢田副会長	<p>エコネットいこまは環境団体であり、自然観察だけにとどまらずここ数年力を入れているのが節電を呼びかける運動である。節電は、突き進めると発電所が一つできるくらいの電気量になるという考えをベースに活動している。友人等と話している中で、節電しているつもりの方が多いと感じる。生駒市民は環境意識が高く節電にも協力的な方が多いが、節電方法が適切で理にかなったものなのかを見直す必要がある。</p> <p>会社の広報誌を作成しており、2年ほど前からSDGsに関する連載を行っている。2月号では環境特集を組んだ。会社を中心に据え、食品の安心安全、ステークホルダーを設定。社員ひとりひとりの言動がSDGsの17のゴールに繋がっていることを示す図を作成した。なぜ環境を考えて商業活動をするのかについて、取引先として信用されるためにするだけでなく、各々の当然の責任であるという意識を社員に浸透させたい。</p> <p>民生・家庭部門の温室効果ガス排出量について、生駒市は住宅都市だから増えてしまうという背景はあるが、だからこそ各自の適切な節電が大切である。</p>
井上委員	<p>エアコンの設定温度を1度か2度変えたところで体感温度はさほど変わらないはず。少</p>

	しずつの節電意識が大切。しかし、節電のために街灯をつけないというのは防犯上問題である。
矢田副会長	おっしゃる通り節電と出し渋ることは別物である。例えば節電のために職場のエアコンをつけなかったら、快適に働くことができなくなってしまう。
下田会長	うちエコ診断では「つもりエコ」という言葉が使われている。節電しているつもりでも、方法が間違っていてはあまり意味がなくなってしまう。
矢田副会長	複合型コミュニティは良い取組なのに、知らない市民が多い。もっと積極的に広げていていただきたい。
事務局	「何かをやってみたい」という意欲を持ってくださっている市民は多い。できることから参加していただけるよう、今後も取組を広げていきたい。
下田会長	脱炭素先行地域は温室効果ガスの削減と地域課題の解決が大切であり、都市のオリジナリティが必要。生駒市のオリジナリティは何かと考えたとき、住宅都市ならではの多様な市民が多くいる「多様性」だと感じる。2050年に向けて、変革のチャンスの時である。
6. 閉 会	

以 上